

### 3. 11東日本大震災に学ぶ！ 新型インフルエンザ対策の新たな対応について

元東京都総合防災部情報統括担当課長

危機管理勉強会 齋藤 塾 塾長 齋藤 實

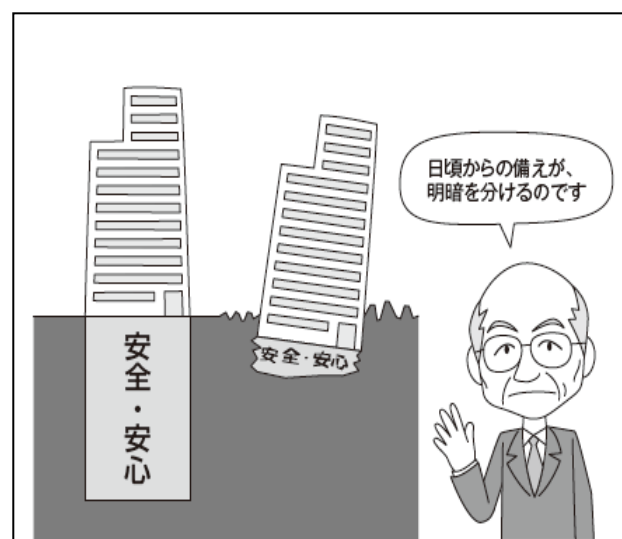
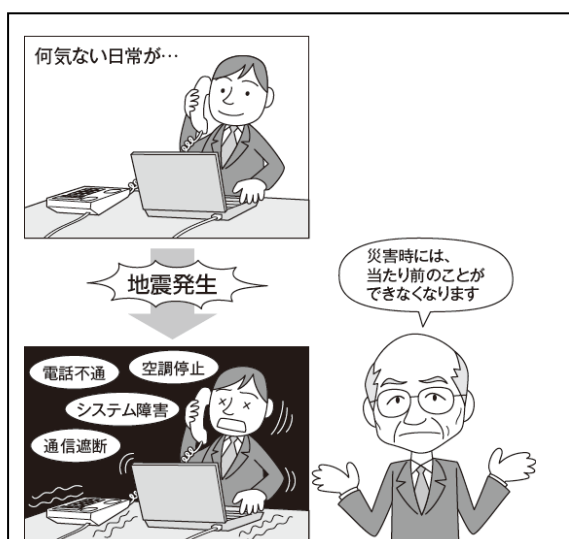
#### 1 はじめに

#### 2 3.11 東日本大震災が発生、その時私は

- 都の災害対策本部広報班の責任者
- 当日、8回のプレス発表、3回の記者レク、約30社からの問合せ
- 都内の死者7名、33件の火災、液状化、多数の帰宅困難者が発生

#### 3 3.11の教訓 ⇒ BCPは機能したか？ ⇒ **想定外で免責されるか**

- 電気・通信等が、「平常時と同様」に使用できる
- 被害状況等が、「平常時と同様」に把握できる
- 責任者（または代行者）が、「平常時と同様」に指示できる
- 必要とする人員が、「平常時と同様」に参集できる
- 必要な資機材が、「平常時と同様」に確保できる
- サプライチェーン（関連業者）が、「平常時と同様」に機能できる



★新型インフルは、「多数の人へ、急激な被害を及ぼす」

#### 4 改めて問われる、企業の「自助・共助」

- 自助とは
  - ・ **お客様と従業員の生命は企業が守る**
  - ・ 自社の事業活動は、自社で守る
- 共助とは
  - ・ 地域の一員として、地域を守る
  - ・ **事業継続のため、サプライチェーンを守る**

#### 5 2009年新型インフルエンザ（A/H1N1）発生時、東京都の危機管理責任者として感じたこと

- トップとの意思疎通
- 関係機関との連携（日頃から、顔の見える関係を）
- 情報発信の重要性
- 「都政のBCP（新型インフルエンザ編）」の策定（指令者を3名に）
- トップを説得するコツ（A3、3人、3分）
- 危機時の判断（迷ったら実行、説明責任、基準は「人間としての常識」）
- 最後は健康

#### 6 2009年新型インフルエンザ（A/H1N1）の対応に学ぶ

- 記録書が出版『新型インフルエンザ（A/H1N1）－わが国における対応と今後の課題』（監修・宮村達男 編集・和田耕治）
- 当時の様々な対策等を実施日に沿って整理し、関係資料も収録
- 医療現場や自治体職員等で、直接取組まれた方々の寄稿

#### 7 新たな感染症出現の懸念

- インフルエンザは毎年やってくる。**忘れたころに突然変異し、強烈な猛威を振う**
- 新たな感染症の出現も懸念
- 「**防災対策**」から「**減災対策**」へ（いかに流行を遅らせ、流行時のピークを下げ、医療体制を破綻させることなく、被害の軽減化・最小化が課題）
- **事前対策としての「BCP策定」が急務 ⇒ 無理して出勤させない**
- **平常時にできないことは、危機発生時にはできない**

#### 8 終わりに

- 私の夢（齋藤塾、地域の防災力向上、社会貢献）  
ホームページ <http://sjuku.web.fc2.com/> 「危機管理勉強会齋藤塾」で検索